

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】令和1年7月4日(2019.7.4)

【公開番号】特開2018-176867(P2018-176867A)

【公開日】平成30年11月15日(2018.11.15)

【年通号数】公開・登録公報2018-044

【出願番号】特願2017-75914(P2017-75914)

【国際特許分類】

B 6 3 H 21/38 (2006.01)

B 6 3 H 21/14 (2006.01)

B 6 3 B 11/04 (2006.01)

B 6 3 B 27/00 (2006.01)

F 0 2 M 37/00 (2006.01)

F 0 2 B 43/00 (2006.01)

F 0 2 M 21/02 (2006.01)

【F I】

B 6 3 H 21/38 B

B 6 3 H 21/14

B 6 3 B 11/04 B

B 6 3 B 27/00 B

F 0 2 M 37/00 3 0 1 B

F 0 2 M 37/00 3 4 1 D

F 0 2 B 43/00 A

F 0 2 M 21/02 L

F 0 2 M 21/02 X

【手続補正書】

【提出日】令和1年5月31日(2019.5.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

液化石油ガスを常温加圧状態で貯蔵する複数の燃料タンクと、
前記複数の燃料タンクが接続され、前記複数の燃料タンクから選択的に前記液化石油ガスが供給される中間タンクと、
前記中間タンクが供給する液化石油ガスを燃料として駆動される主機と、
を備える船舶。

【請求項2】

前記燃料タンクは、陸上に積み下ろし可能なポータブルタンクである請求項1に記載の船舶。

【請求項3】

車両が自走して乗り込み可能な船体を備え、
前記燃料タンクは、自走可能なタンクトレーラである請求項2に記載の船舶。

【請求項4】

前記中間タンクは、
前記主機に供給した液化石油ガスの一部を還流する還流配管が合流接続されている請求

項 1 から 3 の何れか一項に記載の船舶。

【請求項 5】

前記中間タンクの液面を検出する液面センサを備える請求項 1 から 4 の何れか一項に記載の船舶。

【請求項 6】

前記燃料タンクは、前記中間タンクよりも上層に配置されている請求項 1 から 5 の何れか一項に記載の船舶。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記の課題を解決するために以下の構成を採用する。

この発明の第一態様によれば、船舶は、常温加圧状態で貯蔵する複数の燃料タンクと、前記複数の燃料タンクが接続され、前記複数の燃料タンクから選択的に前記液化石油ガスが供給される中間タンクと、前記中間タンクが供給する液化石油ガスを燃料として駆動される主機と、を備える。

このように構成することで、複数の燃料タンクに貯蔵された加圧状態の液化石油ガスが、それぞれ中間タンクを介して主機に供給される。加圧状態の液化石油ガスは、常温でも気化しないため、基本的に再液化装置等を必要としない。さらに、容量の小さい燃料タンクを複数用いることで、高価な大型の加圧タンクを用いる必要が無い。また、加圧状態の液化石油ガスは、陸上の供給施設が整っているため、燃料調達も容易である。さらに、中間タンクを介して液化石油ガスを主機に供給するため、液化石油ガスを供給する複数の燃料タンクを切り替える際にも、主機を停止させる必要が無く、円滑に燃料タンクの切替を行うことができる。したがって、燃料調達や燃料の取扱いを容易としつつ、大気汚染物質の排出を抑制することができる。